

「表現の技法を用いて、読書についての標語を作る」

～表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめる～

標語を読んで、表現の工夫とその効果について自分の考えをまとめることに課題が見られました。そこで、本アイデアでは、標語に用いられている表現の工夫とその効果について分析し、それを生かして読書についての標語を創作する学習を提案します。読書についての自分の思いを標語の形で発信することを通して、特に、表現の仕方について自分の考えをまとめることを狙いとします。

課題の見られた問題の概要と結果

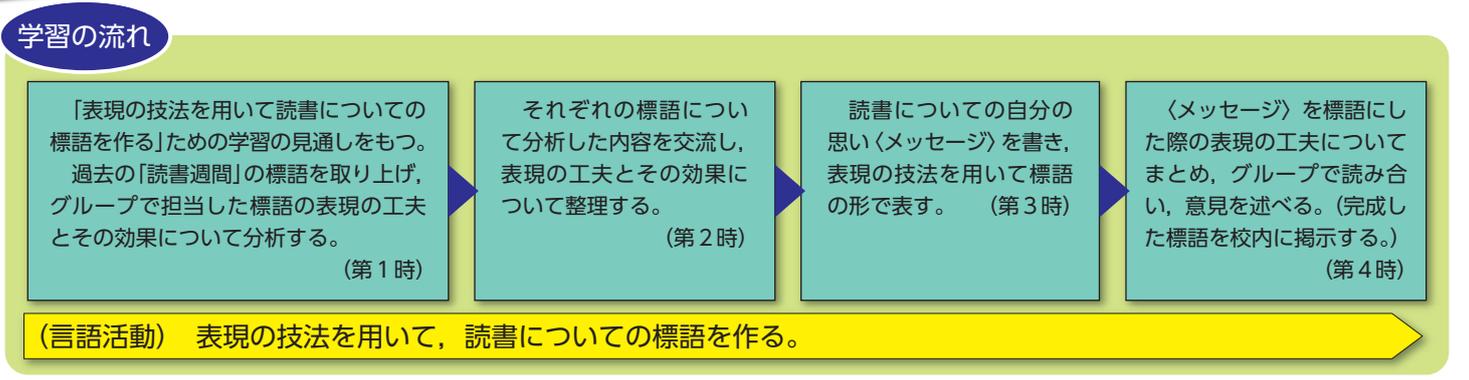
B 1 読書についての標語を考える

B 1 三 正答率 48.9% ノートを基に、標語から伝わってくる〈メッセージ〉と〈表現の工夫とその効果〉を書く。

学習指導要領における領域・内容

[第2学年] B 書くこと オ
[第2学年] C 読むこと ウ
[第1学年] 伝国 (1) イ (カ)

授業アイデア例



授業前の教師の準備

B 1 三についての生徒の解答の状況を「解答類型」(平成26年度 報告書 中学校 国語)に照らして把握する。特に、以下の「解答類型」の生徒の解答の状況に着目する。

- 「解答類型2」の生徒
表現の工夫を具体的に示さず、効果だけを書いている。
表現の技法を適切に理解しないで書いている。
- 「解答類型9」の生徒
「解答類型2」で示した解答の状況に加えて、【早川さんのノート】を参考にして〈メッセージ〉を書くことができていない。

教材例

- 「読書週間」の標語
(公益社団法人読書推進運動協議会「読書週間」標語入選作品)

第1時

1 学習の見通しをもつ。

「読書週間」の標語の分析を役立てて、自分の読書標語を作りながら、表現の技法について理解を深めましょう。

教師

2 右の六つの標語について、グループで一つの標語を担当し、それぞれの標語の表現の工夫とその効果について分析する。

〈「読書週間」の標語〉

F よい社会
E 翔べ心！
D 風もページをめくる秋
C ありますか？好きだと言える一冊が…
B ホントノキズナ
A 本と旅する 本を旅する

《擬人法》を使うことで「風」が意志をもってページをめくってくれるような気がします。また、「秋」と《体言止め》にすることで余韻が残り、様々な情景が浮かびます。紅葉が散る中で、ベンチに座って本を読んでいるのではないのでしょうか。

《5・7・5》になっているからリズムカルで覚えやすいので心に残ります。「ありますか？」と《問いかけ》の言い方することで読者に考えさせる効果があります。自分に言われているようです。

A1 A2 A3
A (を担当)
A4 A5 A6

B1 B2 B3
B (を担当)
B4 B5 B6

C1 C2 C3
C (を担当)
C4 C5 C6

D1 D2 D3
D (を担当)
D4 D5 D6

E1 E2 E3
E (を担当)
E4 E5 E6

F1 F2 F3
F (を担当)
F4 F5 F6

第2時

- ③ グループを右の図のように変え、それぞれの標語について分析した内容を交流する。

Aは、「本と旅する」と「本を旅する」という似た言い方の《繰り返し》をすることで、リズムが生まれ印象的な標語になっています。また、「本と旅する」は、本と一緒に過ごす姿を想像させ、「本を旅する」は、物語の世界に入り込む楽しさを思い出させます。「と」と「を」を使い分けるだけで表現が豊かになります。



A1 B1 C1

1

* AからFの「1」の生徒でグループを作る

D1 E1 F1

2から6も同じようにグループを作る。

第3時

いろいろな表現の技法が使われていることが分かりましたね。では、皆さんの読書についての思いを、表現の技法を用いて標語にしてみましょう。ワークシートに書き込んでいきます。



- ④ 個人で、読書についての自分の思い〈メッセージ〉を書く（ワークシート内の **1**）。
 ⑤ 書いた〈メッセージ〉を、表現の技法を用いて標語の形で表す（ **2**）。

【ワークシートの例】

標語案②

《使った表現の技法》

- ・ 五七五
- ・ 体言止め

2

標語案①

《使った表現の技法》

- ・ 倒置法

変まりました この一冊で

2

3

私は、休み時間に本に夢中になった経験を、《五七五》の形式で表しました。そうするリズムがよくなるので、本を読んでいるときのワクワクする気持ちがいよりの伝わりやすくなると思っただけです。また、大冒険と《体言止め》にすることで冒険を強調し、現実には味わえないような体験が本の中ではできることを表してみました。

1

◆ 読書についての自分の思い（メッセージ）◆

表現の技法を用いて読書についての標語を作る

- ・ 最近出会った一冊の本が変わった
- ・ 先が知りたくなるワクワク感がある
- ・ 休み時間も夢中

第4時

- ⑥ 〈メッセージ〉を標語にした際の表現の工夫とその効果についてまとめ（ **3** ）、グループで読み合い、意見を述べる。



書いたものを読み合い、意見を付箋で貼りましょう。友達の意見から新たに気付いたことをワークシートに書き加えましょう。



※ 〈メッセージ〉が書けない生徒には、以下のような内容を書いてみるよう促す。

- ・ 私にとって本とは
- ・ 本を読まない人へ贈る言葉
- ・ 忘れられない読書体験 など

第4時終了後の教師の分析

書いた文章を分析する。

授業前に把握した「解答類型2」や「解答類型9」に該当する生徒が、次の観点で文章を記述したり、推敲したりすることができているかどうかを見る。

- 表現の技法について理解した上で、標語を作成している。
- 表現の技法をどのように標語に取り入れたかを説明している。

本授業アイデア例 活用のポイント

- 本アイデアのように、個々の生徒の学力の状況を「解答類型」から把握することで、それぞれの課題に応じた指導が可能になる。